

ごみ供養御美印プロジェクト ~社会的ジレンマ解消のススメ~

ごみ処理施設は 生活や事業活動を 支えているのに 嫌われがち

ごみは早く目の前から無くなればイネ 後のことは知らないよー

ごみに無関心な人も関心がある人もいて、ごみになるものを作る人やそれを使う人がいて、誰もが、ごみを出さずに暮らすことはできないのになあ。。。

でも、考えてしまうよね
Not In My Back Yard (NIMBY:にんびー)
必要と思うけど、自分ちの近くに施設が建つのは嫌だ
違うだけだね
ごみ処理施設 = 良くない場所である
そこで働く人 = 悪い人、怖い人

だから、ごみ処理施設が **まちと暮らしを支えている** ことを伝え、**ごみの行く末を考えよう**というメッセージの発信を試みました

インフラツーリズム 広がっています

人々に知って欲しい社会基盤施設(インフラ)は、ごみ処理施設だけではなく！

ダムや橋、高速道路などの社会基盤施設をPRしつつ、観光資源として多くの人に親んでもらうのが「インフラツーリズム」。そのためのツールとして、「ダムカード」や「マンホールカード」があります。



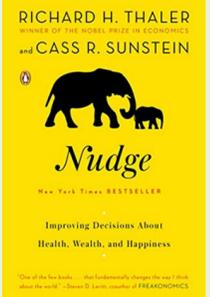
インフラツーリズムは、インフラの役割や意義などインフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景など非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指している。

- インフラツーリズムの拡大を図るために
1. まず、インフラに来てもらう
 2. そこで、インフラを楽しんで理解してもらう
 3. そして、地域に滞在してもらう

出典:インフラツーリズム拡大の手引き-試行版- (国土交通省総合制作局 2019年3月)

Nudgeによる行動変容の試み

ナッジ Nudgeとは
「肘(ひじ)で軽く突く」という意味の英単語です。アメリカの行動経済学者であるリチャード・セイラーとキャス・サンステイニングが、行動変容を誘発し、より良い状況をつくりだすための「ちょっとしたきっかけ」のことを、ナッジ Nudge と名付け、その効果を論じました。



日本の環境省でも、環境負荷のより低い行動様式への転換を目指して、ナッジ事業を進めています。経済産業省は、2019年にナッジユニットを設立しました。

人々が何かを選択する際の構造要素として存在しつつ、目的外の選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変えるものが、ナッジ Nudge です。

ごみ処理施設 = 良くない場所である
そこで働く人 = 悪い人、怖い人
Nudge
何かでイメージを転換させたい

ごみ供養御美印帖のコンセプト

ブームになっている聖地巡礼(漫画やアニメ・ゲームの舞台となった場所をファンが訪れるもの)や霊場を巡る遍路、社寺仏閣での御朱印集めにあやかって、そのためのグッズとして御美印帖や御美印を作成しました。

ごみ供養 御美印を求めてごみ処理施設を訪れることや、御美印帖を見てごみ処理施設の先の最終処分場を知るところを契機にして、改めて捨てたモノに感謝し、その行く末を考える

御美印帖 表紙、案内文、押印の説明、ごみ供養五箇条、施設ごとのページで構成 施設は1カ所2ページで、写真と説明文が右ページ、墨書押印が左ページ

御美印 御朱印をもじった御美印は、本家のスタイルをまねた丸印と角印と日付印の3点セットとする
・丸印はキャラクターなど、それぞれの施設を代表する画像
・角印はごみ減量などを呼びかけるキーワードを文字で示すもの

複数の施設で同じ様式の御美印を持つ協働事業を行うことで、来場者に「非日常」ではなく皆が同じ「日常」だと知らせます。
ネットワーク外部性も狙っています

制作過程と押印方法

- 1) 御美印帖の右ページの素材集め
① 上段に入れる写真の選定(施設遠景など)
② 下段に入れる文言の決定(施設の説明)
- 2) 御美印の素材集め
① 中央朱印(60mm丸印)用のイラスト原案の画像選定
② 右上朱印用の文言の決定(10文字以内で5・7調)
③ 左下朱印(既存の一般的な日付印で可)
- 3) 墨書に用いる文言の決定
- 4) 各素材をモチーフにしてデザイン作成

スタンプラリーなら3カ所で押印できるよ

- ごみ処理施設が巡礼旅の目的地となるべき5つの理由**
- 理由1: インフラ観光の資源として潜在力を持っている
 - 理由2: ものとの最後の別れをすることができる場所である
 - 理由3: 見学用の設備やグッズをすでに持っている
 - 理由4: 複数の施設を巡礼できるネットワーク性がある
 - 理由5: 社会から見える化を要請されている



これまでの「御美印」一挙公開

8カ所の焼却施設や最終処分場で10セットの御美印を作りました
※2019年9月13日現在



プロジェクト参加施設の 御美印 活用状況

施設名	活用方法	(参考) イベントでの配布数等	
①豊中市伊丹市クリーンランド	焼却施設	○年1回のクリーンランドフェスティバルでスタンプラリーを実施 ○併設の豊中伊丹スリーRセンターに常設 ○月1回の展望フロア開放デーで設置	フェスで配布780帖・スタンプ完成500帖(2018)
	展望フロア		
②大阪広域環境施設組合	西淀工場	○年1回の工場オープンデーで設置	押印:100帖
	舞洲工場	○常設(見学は日祝以外で申込制)	-
③東大阪都市清掃施設組合		○常設(見学は日祝以外で申込制)	-
④猪名川上流広域ごみ処理施設組合 国崎クリーンセンター		○併設の啓発施設「ゆめはたる」に常設(休館は月曜・年末年始のみ)	-
⑤枚方市	穂谷川清掃工場	○年1回のごみ減量フェア/環境フェスタで設置	-
	東部清掃工場	○小学生の施設見学時に設置	-
⑥大阪湾広域臨海環境整備センター(大阪湾フェニックス)	大阪沖最終処分場	○京都府環境フェスティバルでの大阪湾広域臨海環境整備センターブースに設置	京都府環境フェスで押印:60帖
	神戸沖最終処分場	○月1~2回の定例施設見学会で押印	

※2019年10月1日から、大阪市・八尾市・松原市環境施設組合が名称を変更します。

この企画は、2018年度に大阪湾広域臨海環境整備センターの環境保全市民活動等助成を受け、福岡雅子と大阪産業大学の花嶋温子のユニット「ばっくやあどつあー」が実施しました。引き続き継続中です。